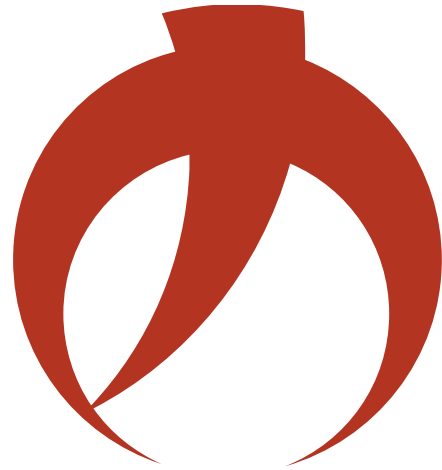
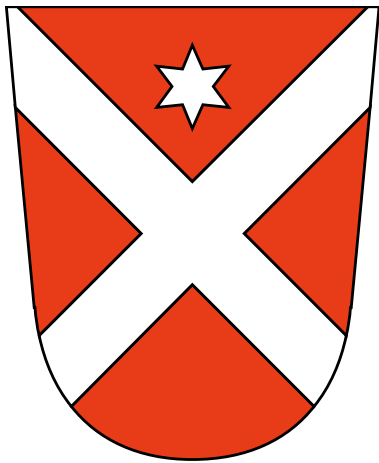

平成27年度
国際交流視察団報告書



平成27年12月 奈井江町

目 次

視察団派遣日程	1
視察団報告書	2～33
①役場 暮らしと財務課長 小澤 克 則.....	2
②奈井江商業高校 1年生 瀧 姫 華.....	11
③奈井江中学校 2年生 北 耕 一.....	18
④奈井江中学校 2年生 平 田 涼 夏.....	23



【左から】

北 耕一、平田 涼夏、アレクシ・ヘイツキラ ハウスヤルビ町長、
瀧 姫華、小澤 克則

ハウスヤルビ町国際交流視察団日程表

【平成 27 年 10 月 22 日（木）～10 月 30 日（金）：9 日間】

月 日	団 長	団員 3 名
10/22 (木)	11:50 出発式（役場応接室） 11:45 新千歳空港発 16:55 中部国際空港着（コンフォートホテル中部国際空港宿泊）	
10/23 (金)	8:25 コンフォートホテル中部国際空港出発 10:30 中部国際空港発 15:00 ヘルシンキ空港着（日本時間 21:00） 17:00 ホテル到着（リヒマキ市・ホテルスキャンディック） 18:00 歓迎会（同ホテル内）	
10/24 (土)	10:00 リヒマキ市、ハメーンリンナ市視察 （ガラス工房、狩猟博物館、ハメ城見学）	ホストファミリーとの交流・学校生活の体験
10/25 (日)	10:30 リヒマキ市、ヒュービンカー市、ハウスヤルビ町視察 （教育長宅（昼食）、鉄道博物館、郷土館コスケラハウス、ヴィンニラ農場） 18:00 教育長夫妻とレストランで夕食（リヒマキ市）	
10/26 (月)	9:00 ハウスヤルビ町役場での研修 13:00 財務省での研修（ヘルシンキ市） 17:00 鹿狩りに同行（ハウスヤルビ町）	
10/27 (火)	8:30 ハウスヤルビ町公共施設等視察 （エスコー統合学校、キルコン克蘭幼稚園、ハウスヤルビ中学校、ハウスヤルビ高校、オイッティ小学校、総合福祉施設レヒティマヤ、ハウスヤルビ町議会、蜂蜜製品製造販売会社） 17:00 サウナパーティー（町営キャンプ場）	
10/28 (水)	8:30 職業学校ヒュリア視察（ヒュービンカー市・リヒマキ市） 18:00 送別会（リヒマキ市）	
10/29 (木)	8:30 ヘイッキラ町長とホテルで朝食 9:30 ホテル出発、ヘルシンキ市内観光 （ムーミンストア、ヘルシンキ大聖堂、テンペリアウキオ教会） 17:15 ヘルシンキ空港発（日本時間 30 日 0:15）	
10/30 (金)	9:40 中部国際空港着 11:20 中部国際空港発 13:00 新千歳空港着 15:45 奈井江町到着	

【視察団員氏名】

団長	小澤克則	奈井江町役場くらしと財務課長
団員	瀧 姫華	奈井江商業高等学校 1 年生
	” 北 耕一	奈井江中学校 2 年生
	” 平田涼夏	奈井江中学校 2 年生

ハウスヤルビ町の財政状況、市町村合併の動向等について

奈井江町役場くらしと財務課長 小澤克則

平成7年(1995年)4月1日、ハウスヤルビ町の議事堂において奈井江町とハウスヤルビ町が友好都市提携の調印を行ってから、今年で20年が経ちました。

保健・医療・福祉や地方自治に関する取り組みを通じて、これまで両町の多くの町民が、互いに学びあい、友情の絆を育み続けてきたことは、何ものにも代えがたい財産であり、私たち視察団員4名が、このような記念すべき年に、貴重な体験の機会を与えていただいたことに改めて感謝を申し上げます。

私たち4名は、平成27年10月22日の正午、役場で北町長を始めとする関係者、家族の方々に見送られ奈井江町を旅立ち、中部国際空港で前泊の後、10時間半のフライトを経てヘルシンキのバンター国際空港に到着しました。

到着後、ハウスヤルビ町の送迎バスで高速道路を經由し、宿泊地であるリヒマキ市に向かいましたが、高速道路の構造やシラカバ林など周辺の風景は、北海道とよく似ており、7,800kmも離れた異国の地にいるという感じがしなかったのが、フィンランドでの最初の印象でした。

約1時間の移動後、リヒマキ市のスキャンディック・ホテルに到着し、同ホテルで開催された歓迎会で、トルティーラ教育長を始めとする役場関係者、ホームステイのホストファミリー、あわせて13名の方々が私たちを迎えていただき、長旅の疲れと緊張感がありつつも、和やかな雰囲気の中で最初の使命を無事終えることができました。

以下、私からは、ハウスヤルビ町の財政状況、市町村合併の動向、フィンランドの自治体改革などについて、報告します。

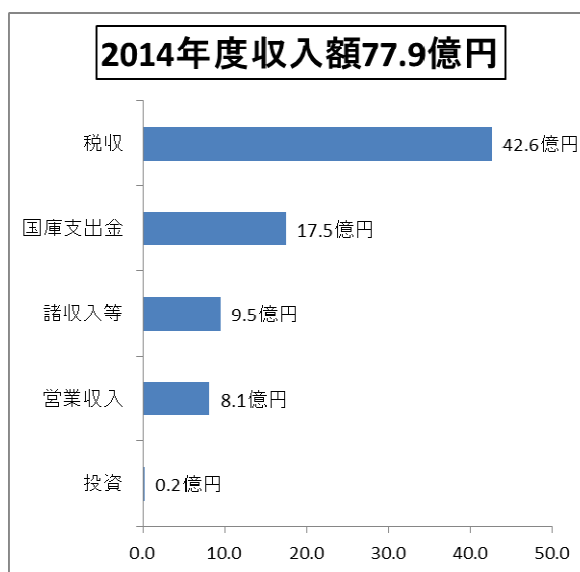
○ハウスヤルビ町の財政状況等について

改めてハウスヤルビ町の概要を説明しますと、フィンランドの首都であるヘルシンキ市から北へ 85km と至近距離にあり、鉄道、高速道路などの交通網も整備されており、国の首都と道庁所在地の違いはありますが、中心都市に近いという奈井江町の地理的条件とよく似ている環境にあります。

ハウスヤルビ町の現在の人口は 8,816 人（2014 年 12 月 31 日）ですが、20 年前と比較すると約 700 人増加しており、フィンランド統計局から毎年 0.5% の割合で人口が増加するとの予測も出ていることから、2020 年頃には 9,000 人を超えるのではないかと考えられます。

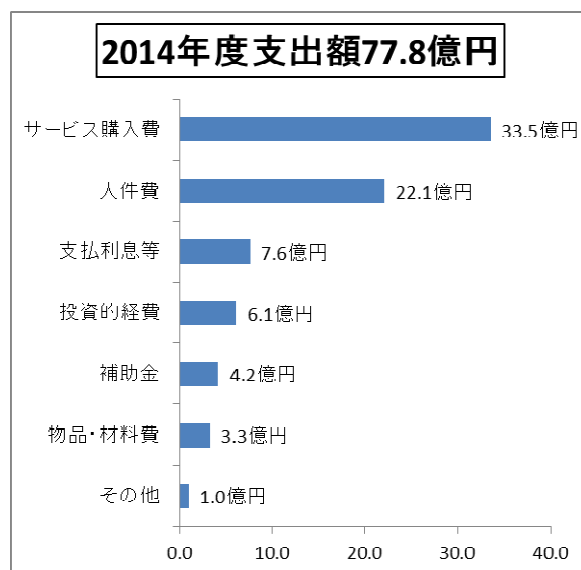
また、フィンランドの高齢化率（2011 年）は 17.7% で、日本と同様、年々高くなっていますが、ハウスヤルビ町の高齢化率は国全体の高齢化率より 0.9% 低い 16.8% となっています。

次にハウスヤルビ町の財政状況についてですが、日本円に換算（1 ユーロ 133.9 円）した 2014 年度決算額を図に示しましたが、収入の特徴は、税収が 42.6 億円（54.7%）、これにサービス提供の対価である営業収入などを加えると自主財源の比率が 77.5% となり非常に高いと言えます。（奈井江町の 2014 年度一般会計決算の自主財源比率は 27.3%）。



また、税収は、個人所得税、不動産税、法人所得税の 3 税に区分されますが、このうち個人所得税が 38.9 億円で税収の約 9 割を占めており、人口 1 人当たりに換算すると 44 万円の負担となり（奈井江町の人口 1 人当たりの住民税額は、5.4 万円）、北欧諸国の特徴である高福祉高負担の状況が表れています。

支出については、サービス購入費 33.5 億円 (43.1%)、人件費 22.1 億円 (28.4%) など、経常経費を合計すると 64.1 億円 (82.4%) の費用がかかっていますが、自治体における保健・医療・福祉・教育・文化などの財政需要に対する国庫支出金（一般補助金と言われ、日本の交付税に近いもの）を加味すると損益計算書では 3.4 億円の経常利益が生まれ、その結果 2014 年度は黒字決算となっています。また、キャッシュフロー計算書における資金期末残高は前年度末から 0.7 億円増の 3.7 億円となっています。



ハウスヤルビ町の学校施設などの公共施設を視察しましたが、教育面では、20 年前 10 校あった小学校を 4 校に統合したり、各学校の始業時間をずらし、効率的にスクールバスを運行するなどの学校経営の効率化を進めていたり、奈井江町の保健・医療・福祉のモデル的施設である「総合福祉施設レヒティマヤ」では、国の法改正により市町村の介護サービスの充実が必要になったことに加え、毎年手術の件数にばらつきがあるなど、医療分野の経営の効率化を図る必要があるため、来年から医師を全員、リヒマキ市にある地域医療センターに集約化し、病棟を老人介護施設に変更するため入院患者の転院を行っている最中でした。

今回の視察や説明によりすべてを把握できた訳ではありませんが、町財政の健全運営に向けた取り組みを非常に効率よく積極的に進めていると感じました。今後の財政運営の見通しについては、現時点で十分な資金があるとまでは言えませんが、人口の増加などにより税収も年々増えていることから、比較的財政基盤は安定しているのではないかと感じました。

今回の視察や説明によりすべてを把握できた訳ではありませんが、町財政の健全運営に向けた取り組みを非常に効率よく積極的に進めていると感じました。

今後の財政運営の見通しについては、現時点で十分な資金があるとまでは言えませんが、人口の増加などにより税収も年々増えていることから、比較的財政基盤は安定しているのではないかと感じました。

○フィンランドの教育制度について

フィンランド教育の基本原則は、「全ての人が平等に質の高い教育や訓練を受けることができる」とされており、全ての教育課程を無料で受けることが可能となっています。

教育課程については、義務教育が日本と同じ 6・3 制で、7 歳から小学校に入学しますが、小学校に入学する前の 1 年間は、プリスクール(就学前教育)を無料で自由に受けることができるのも特徴の一つとなっています。



【エスコー統合学校でのプリスクールの授業風景】

フィンランドの市町村は、小・中学校、高等学校、職業教育訓練のサービス提供に責任を有していますが、学校の形態は様々であり、ハウスヤルビ町では、オイッティ小学校とハウスヤルビ中学校のように小学校と中学校が分かれている場合もあれば、統合学校と呼ばれる小中学校が一緒になっている学校もあり、現在、ハウスヤルビ町が運営している学校は、統合学校 3 校、小学校 1 校、中学校 1 校、高等学校 1 校となっています。

フィンランドの高校は、普通高校と職業学校に分かれています。高校入学のための試験はなく、生徒は 6 校まで希望校を選択することができます。高校側は入学可能な義務教育期間中の内申書の最低点を決め、上回っている者から合格者を選考する仕組みになっていることから、生徒が希望校に入学するためには、9 年間にわたる日々の継続的な学習と積み重ねが必要となります。

高校卒業後は、高等教育である大学と高等職業専門学校に進むこととなりますが、普通高校と職業学校の単位を互換できます。ヘイッキラ町長の経歴を聞くと職業高校から大学に進学し、町長の兄弟は普通高校から高等職業専門学校に進学しているそうで、このように柔軟に進路を選択、変更できるのがフィンランド教育の特徴でもあったと言っていました。

幼児保育については、町内に 4 つの幼稚園があり、この内、廃校跡地に 2012

年に建設したキルコンクラン幼稚園を視察しましたが、ここでは、1歳から6歳まで55人の幼児を受け入れし、保育時間は5時から22時30分まで。週末の利用に加え、夜間の宿泊も行っており、働きながら育児をしている家庭の様々なニーズに対応しています。保育料は、1ヵ月（1日10時間、月20日間）で240ユーロ（約32,000円）とのことでした。

このほかハウスヤルビ町では、5校を統合し、2010年に開校したエスコー統合学校を始めとする教育施設を視察しましたが、特に印象深かったのは、職業高校です。

フィンランドの職業高校は、広域連携により運営している学校が多くあり、私が視察した職業学校は「ヒュリア」という名称で、7つの職業教育機関を統合し2009年に設立されました。校舎は、ヒュビンカー市とリヒマキ市に分かれ、高校生2,457人、大人7,300人、定時制高校生673人に農・工・商を始めとする25種類の職業教育を行っています。運営形態は、ヒュビンカー市、リヒマキ市、ハウスヤルビ町、ロッピー町が出資した株式会社で、フィンランドの中でも株式会社が職業学校を運営している事例は数少ないとのことでした。フィンランドでは、株式会社であっても政府からの補助金が交付されるので、ハウスヤルビ町を含めた4市町は、出資金のみで運営経費の負担はしていないとのことでした。

フィンランドの職業学校では、中途退学が大きな課題でありましたが、設立以来、実用的で質の高い教育に取り組んできた結果、2010年に12.2%あった中途退学が、2013年には8.9%まで低下するとともに資格の合格率も2010年の67.9%から2013年には75.1%まで上昇し、これらの取り組みが政府に評価され、昨年、国内で第3位の職業学校に位置づけられています。

各校舎では、自動車整備、金属加工、木材加工など、様々な実習が行われていましたが、その中でも、EUから5,000万ユーロ（約67億円）の補助を受けて整備されたマルチメディアの実習棟では、テレビスタジオがあったり、3D映像の作成、3Dプリンターが設置されているなど、とても先進的な施設で、のびのびと実習している生徒たちの姿が印象的でした。

また、技術系の教員の中には、元は会社の経営者で、その技術を生徒に教えているという教員がいたり、学校として卒業後の就職先を確保するため、地域

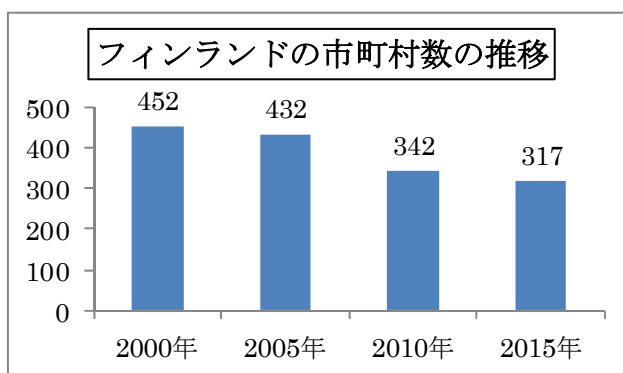
の事業者の意見を聞いて実習に取り入れているという話を聞き、非常に実用的で効率的な教育を行っているという点にあたりまえのことながら驚きと感心をしたところです。



【職業学校での実習風景（左は自動車整備、右は3Dプリンターの実習）】

○フィンランドの自治体改革について

フィンランドの自治体数は、2000年に452の市町村がありましたが、市町村合併の推進により、2015年現在で317市町村まで減少しました。



1 市町村の平均人口は約17,000人、全市町村の約5割が

6,000人未満の人口規模であり、依然として小規模自治体の割合が高い状況となっています。

自治体の収入をめぐる状況は、税収の大部分を個人所得税が占めており、税率も自治体が自由に決定できることから、年々税率が上昇し、全自治体の平均税率は、2014年度で19.38%（ハウスヤルビ町21.0%）となっています。また、自治体に交付される一般補助金の金額も年々増加しており、市町村及び市町村連合の収入額（税収・営業収入・一般補助金）の合計は、1999年度に21.5億ユーロだったものが、2014年度に41.5億ユーロになるなど、大幅な伸びをみせています。

これまでもフィンランド政府は、市町村合併の推進や国庫支出金の算定方法の改正など、自治体改革に向けた様々な施策を展開してきましたが、ヘルシンキなどの都市に人口が集中し、自治体間の経済格差が生まれていることや自治体間の連携不足などによって、過疎地のサービス低下が懸念されるなど、日本と同じような課題が数多く発生しており、自治体の運営基盤の強化が必要となっています。

このため、フィンランド政府は、市町村合併を一層推進するため、2012年末の現行法案の期限切れに伴い、新たに市町村合併を推進する自治体構造法を2013年7月から施行し、①人口 ②地域の就業、通勤状況 ③財政状況 の3つの基準のいずれかに該当する場合、市町村合併の可能性を検討することを法律で義務付け、関係自治体の合意のもと、2015年度から2017年度の間市町村合併を実施することとしています。また、地方自治法の全面改正や一般補助金の改革を行うなど、自治体改革に向けた総合的な取り組みを進めている最中です。

また、財務省の担当官は、市町村合併による自治体の体質強化の必要性と併せて、国の法律に基づくサービス提供が市町村財政を圧迫している状況もあることから、国としても更なる財政支援を行う必要があるとの認識を示しており、公共サービスの提供主体である自治体を支援しようとする政府の姿勢を感じました。

○ハウスヤルビ町の市町村合併について

ハウスヤルビ町が市町村合併に取り組んだきっかけは、フィンランド政府が2013年7月から自治体構造法を施行し、人口や財政状況などの基準に該当する市町村に対し、合併の可能性についての検討を義務化したことにあります。

ハウスヤルビ町は、この法律に基づき、リヒマキ市及びロッピー町との3市町

【3市町の概要（2011年1月末）】

市 町 名	人口 (人)	面積(k㎡)
ハウスヤルビ町	8,822	399.83
リヒマキ市	28,818	125.56
ロッピー町	8,275	655.98
合 計	45,915	1181.37

による協議会を 2013 年 11 月に設置し、自治体構造の調査と報告書の作成を開始しました。

協議会では、2014 年 5 月に第 1 段階の報告書を完成させ、その後、プロジェクトチームによる検討後、2015 年の 6 月から 7 月にかけて報告書を公表し、住民や利害関係者の意見集約の上、9 月 28 日の議会議決に至りましたが、各市町の議会議決の結果は、リヒマキ市は合併賛成でしたが、ハウスヤルビ町は賛成 12 名、反対 23 名で合併拒否、ロッピー町も合併拒否となり、法律に規定する国への市町村合併の共同提案が不可能となりました。

合併した場合の中心地であるリヒマキ市は、当初から合併に賛成の立場であり、3 市町の中では人口が最も多い反面、面積が小さいことから、今後、宅地開発を進めるためにも土地を確保したいという狙いがあったと聞きました。

ハウスヤルビ町が合併を反対した主な理由としては、「人口規模の違いから議会選挙を行っても、ハウスヤルビ町出身の議員が少なくなり、これまでのような自主権を維持することが難しくなるのではないか」という不安や「今なお、フィンランド政府は様々な自治体改革を進めており、これらの動向を見据える必要があるのでは時期早尚ではないか」という意見があったと聞いています。一方で、合併賛成の 12 人議員の意見としては、「合併によって医療などのサービスの充実化が図れる」という医療関係の議員の意見などがあったと聞きました。

また、ハウスヤルビ町とリヒマキ市との歴史的な背景として、リヒマキ市は 1922 年にハウスヤルビ町から独立をしています。リヒマキ駅を中心とした地域の人口が増え、インフラ整備の費用を負担したくないという理由から、ハウスヤルビ町はリヒマキ市を切り離したという経過があるようで、そのことも合併に賛成できない理由の一つではないかと考えられます。

これらのことから、現在、国が進めていた自治体構造法によってハウスヤルビ町が合併する可能性は消滅しました。また、この 3 市町の枠組みによる市町村合併は、今後も難しいものと思われれます。

約 2 年間にわたり 3 市町は、多大な労力を費やし合併協議を進めてきましたが、市町村合併により行財政運営の効率化が図れる反面、周辺となる市町の行政サービスが低下するのではないかという住民の素朴な疑問など、合併に対する住民のコンセンサスを得ることの難しさを改めて感じました。

○終わりに

日本とフィンランドの社会情勢は、人口の都市への集中化や高齢化の進展、また、ヘイッキラ町長が言っていた健康保険制度の広域化の必要性など、両国の市町村を取り巻く状況は類似した点が数多くあると感じました。

このような中、市町村合併を選択せずに広域連携を中心とした行政運営を進めてきた両町の取り組みを維持・発展させるとともに、中心都市に近いという地理的優位性を活かしたまちづくりを進めていくためには、定住対策を始め保健・医療・福祉や子育てなどの施策をどのように進めることが効果的なのか、微増ながら人口が増加し続けているハウスヤルビ町の実情と取り組みを、さらに掘り下げる必要があるのではないかと思います。

今回、私たち4名のハウスヤルビ町訪問にあたっては、役場職員や各議員、関係者の方々に、行く先々で温かく親切に迎えていただき、ハウスヤルビ町の町民に奈井江町のことが確実に定着していることを実感いたしました。

あらためてハウスヤルビ町の皆様に感謝申し上げるとともに、これまでの20年間にわたる交流の成果と絆を大切にしながら、今後ともこの交流が、両町の町民共有の大きな財産として育まれることを期待し、視察の報告といたします。



【28 日夜の送別会】（左からマルック・トルティーラ教育長、ティモ・シルバン副議長、サカリ・ヴァルカメ通訳、アニッタ・ヒエタニエミ総務課長、アンネ・マケラ校長、ヤリ・マキネン副理事長、小澤課長、リスト・ティッパーナ副理事長）

ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江商業高校 1年生 瀧 姫華

(ホストファミリー：ミンナ・マケラ、アーニャ・マケラ)

【1日目】

「本当に行くのだな～」という気持ちで車に乗り、千歳には思ったより早く着いたけれど、一時間半のフライトはとても長く感じました。それからようやく中部国際空港に着いて、ホテルの部屋に戻って少し休憩してから、みんなでご飯を食べに行きました。部屋はとても綺麗で、1人だったけれど寂しくなくて、1人暮らしをしているみたいでなんだか楽しかったです。その夜はラップを歌い、鏡の前で踊って、いつもと変わらない夜を過ごしました。

【2日目】

前日の夜は全く眠れず、朝、半目状態でした。ホテルにはいろんな国の人がたくさん居て、食べ方もそれぞれでしたが、箸を使っている人は少なかったです。かぴかぴで美味しくないお米だったけれど、まともな日本食を食べたのはそれが最後でした。

空港では細かい荷物検査を終え、出国審査の税関のところで、私の大好きなお笑い芸人の中川家の礼二がモノマネをしているような税関の人が本当に居て嬉しかったです。それから、とうとう飛行機へ。長い長い旅が始まりました。10時間もずっと座って何をすればいいんだという感じでしたが、映画はおもしろそうなものが何も無いし、イヤホンも使い方がよく分からないし、機内食は美味しくなくて、もう地獄の時間でした。チキンかポークか聞かれたので、私はポークと言ったら、とても美味しくなかったです。

まず黙っていることが、何よりもストレスでした。やっと着いて、着いたときには何か達成感のようなものがありました。でも、吐きそうで頭が痛くて、死にそうになっていました。そこから迷いに迷いながら入国審査へ。出国審査は特に何も聞かれなかったけれど、入国審査では、「何しに来たのか」「どこへ

行くのか」「ホテルの紙を見せてくれ」等、こと細かく聞かれました。そして、すべてを終えてゲートを抜けると、トルティーラ教育長、ヒエタミニ総務課長、通訳のヴァルカメさんが迎えてくれました。青い大きめのバスに45分ほど揺られながら思ったのは、北海道とあまり変わらないということ。北海道よりも木がたくさんあるぐらいなので、景色を見てもそんなに驚きませんでした。

それから、リヒマキ市のホテルに着いて、やっと一息できる時間がありました。そして、制服に着替えて18時頃、レストランでホストファミリーとの歓迎会。私のホームステイ先のアーニャとは、SNSで繋がっていたけれど、実際に会うととても照れました。ご飯はあまり美味しくない聞いていたけれど、全然そんなことはなくて、一番美味しかったのは、トナカイの肉と芋を和えて食べるのがとても美味しかったです。最後のデザートはブルーベリーのケーキに何かのソースをかけるのも、美味しくてたまげました。歓迎会の終盤に奈井江町からの贈り物を私が代表して渡しました。とても喜んでくれて嬉しかったです。フィンランドの人たちは、本当に素敵な人たちだと知った2日目でした。

【3日目】

平田さんが起きて7時ぐらいに、すぐご飯を食べに行きました。そこに昨日のブルーベリーのケーキがあって、朝からたくさん食べました。10時にホストファミリーが迎えに来てくれて、そこから激スーパーハードスケジュール。まずスーパーに行って、食材を買いました。さすが外国。商品が全て大きくて、もうグミなんかはタライぐらいの大きさの物もありました。そこから一度、家に帰り、訳も分からずまたすぐ車に乗せられ、着くとそこは古い大きなお城でした。当時のものがそのまま残っている状態で、迫力がありました。そのお城



の周りには湖と公園があったので、アーニヤとはしゃぎました。休む間もなく移動。次は塔に行きました。何もなかったけれど、とりあえずひたすら上りました。頂上に着くと、もう今まで見たことのないくらいの絶景でした。疲れていたけれど、またそこで、「ああ、フィンランドいいな～」と思いました。写真を撮ったらまたすぐ移動。

今度はアーニヤのお姉さんの家に行きました。マンションみたいなところだったけれど少し変わっていて、鍵を開けて廊下があって、また鍵を開けて廊下があって、やっと入れるという形でした。すぐ抱きしめて迎えてくれて、とても良い人でした。でも、10分ぐらいですぐに仕事に行ってしまいました。私たちも退散して、やっと家に帰れました。

日本からのお土産をたくさん持っていったので、それを渡したらとても喜んでくれました。ほぼ100均のもので、のれんやはち巻、梅干とかもあって、ふんどしなんかも持って行きました。はち巻が気に入ったらしく、ずっと付けていました。もう疲れ果てていましたが、またここからが地獄でした。眠かったけれど寝かせてくれなくて、19時なのにとっても眠くて、20時にはもう白眼をむいていました。これが「時差ぼけ」なんだと身に染みしました。そして21時にやっと寝かせてくれて、この日は旅が始まって、初めて「寝た」気がしました。

【4日目】

普通に7時ぐらいに起きて、電車に乗ってヘルシンキへ行きました。電車は特急の中みたいに綺麗でした。椅子の間にごみを入れるところがありました。1時間ほどでヘルシンキに着いて、そこからまたスーパーハードスケジュール。

大体のお店は11～12時じゃないと開かないらしく、それまで待たなくて、お腹が空いたからマクドナルドに行きました。文字がよく読めなかったけれど、なんとかダブルチーズバーガーを頼めました。味は日本と変わらなかったけれど、違ったところはポテトに最初は塩が振っておらず、小さい袋に塩が入っているのを自分で好きな分だけ持って行くというのと、ケチャップもセルフ式で、水道みたいな形で押した分だけ出るというものでした。

そして、いろんなところをぶらぶらして、30分ほど歩いて観覧車を乗りこぎに港へ行きました。そこの景色を見て、「ああヨーロッパへ来た～」と思いました。

日本の観覧車よりスピードが速くて三周もしました。そして、江ノ電のようなものに乗って、水族館へ。日本の水族館よりもリアルに再現されていて、とても綺麗でした。そして、また街に戻って、もう店が開いている時間になったので買い物開始。

途中でローサと平田さんと合流して、服屋さんに行って、みんなで帽子を被ったり、アクセサリを着けてキャッキヤしたりして遊びました。百均みたいなところもあったし、日本にあるお店もありました。

暗くなってきてまた電車に乗り、帰りました。その夜は家の地下にあるサウナに入りました。本当にあってびっくり。石に水をかけて温度を上げるというもので、アーニャはバシャバシャかけていました。私はサウナがあまり長く入れないので、すぐに上がってシャワーを浴びて寝ました。

【5日目】

この日はいつもの平日と変わらず、歩いて学校に行きました。ローサと平田さんと行く約束をしていたから道の途中で待っていました。なかなか来なくて、絶対遅れると不安だったけれど、アーニャは余裕で、結果、少し遅刻して行きました。それでも先生も来ていなくて、先生が来ないと教室の中に入れないのでみんな教室の外で待っていました。日本人が急に来たからと、みんなにすごく見られて怖かったです。

一時間目は音楽の授業で、始めの挨拶とかはなく、それぞれの担当の楽器を自由に弾いていました。アーニャは、キーボードの担当で、私はキーボードやピアノは全くできないのでずっと見ていました。「ピアノはできないけれど、ドラムはできる」と伝えると、「やっていいよ」と言ったので、適当に叩いていました。すると最初、ギターの子が乗って、次々にみんなも乗ってくれて、最後には拍手



をしてくれました。
そこで受け入れて
くれた気がしまし
た。しばらくする
と、急に日本語を
話せるおばさんが
来て、とても安心
しました。



そのおばさんは、
ラマさんという人
で 10 年間日本に

住んでいたらしく、一日通訳さん代わりになってくれてとても助かりました。5・6時間目はいじめ防止のキャンペーンがあり、よくわからないまま体育館へ。フィンランドではとても有名な人たちで、馬鹿なことしかしない四人組のうちの2人が来るということで、みんな騒いでいました。最初は、「なんか見たことあるなー」と思っていたら、`仰天ニュース、`か、`世界丸見え、`か、何かの番組で私も見たことがあることに気づき、テンションが上がっていました。「日本からせっかく来たから」と写真を撮ってくれました。新聞記者の人も来ていて、名前を聞かれたので書きました。そして次の日、新聞に大きく載りましたが、`himeka taki、`が `himeka tuki、` になっていました（笑）。

学校が終わって、ローサと平田さんが家に遊びに来ました。スローモーションでビデオを撮ったり、写真を撮りまくったりして遊びました。私の大好きで尊敬しているアーティスト、`AK-69、` がどれだけ素晴らしいのかを必死に伝え、ラップとダンスを披露したら「すごい！」と言ってくれました。言葉はわからなくて大変だけれど、音楽をかけて歌って踊れば1つになれて、改めて音楽の力はすごいと感じた1日でした。

【6日目】

昨日と同じく、朝早くに起きて準備開始。朝ご飯に出たお母さんが作ったブルーベリーのヨーグルトがとても美味しかった。みんなと段々仲良くなれて

って、楽しくなってきました。その日の給食は、小麦(?)のお粥にシナモンとベリーソースをかけて食べるもので、食感は長芋みたいな感じで、美味しくなかったです。

その日の学校終わり、アーニヤの心友のパウラが、幼稚園のハロウィンパーティーの手伝いをしなければならないと言ったので、近くの幼稚園に行きました。私も飾りつけ等を手伝ってから、ケーキも作りました。またそのケーキもすごい。タルト型のスポンジ生地にチョコクリームをこれでもかというくらいごてごてに塗り、その上に青くした生クリームをたっぷり塗り、イチゴと世界一まずいといわれる餡`サルミアッキ、をのせて食べました。

子供たちはまだ英語を話せなかったもので、何か言われても分からなかったけれど、かくれんぼをしたりして少し仲良くなれました。疲れたけれど、いろいろな人と繋がれて、仲良くなれて、フィンランドでの生活に段々慣れてきて、「もう少し、こっちにいてもいいかなー」と思いました。

【7日目】

最後の登校の日。この日はアーニヤたちと行動するのではなく、高校1年生のクラスで一日過ごしました。日本語がほんの少しだけできる男の子がいて、その人に毎時間教室を案内してもらいました。

5時間目の授業の最中、校長先生に呼ばれていくとムーミンのお皿とコップをプレゼントしてくれました。中学生は、騒いだりやりたい放題だったけれど、高校生は結構みんなちゃんと勉強していました。本当にみんな良い人で、こっちの学校にずっといたいと思いました。

学校が終わった後、ローサの家に行きました。ナツケという名前の大きな犬がいて、とても可愛くてずっとナツケと遊んでいました。そのあと、お土産を買いにヒュビンカー市の大きなスーパーに行きました。日本の大きいスーパーとは、比較にならないぐらいでした。

その日の夜、お母さんからプレゼントをもらって泣きそうになりました。サウナに入って、淋しい気持ちで寝ました。

【8日目】

フィンランドを離れる日。

朝から誰が迎えに来るのか、どこにいけばいいのか全くわからず、とてもばたばたしていました。なぜか学校に行くことになり、一時間だけ体育を受けて、9時に外へ行くと、もうお迎えのバスが来ていました。何人か友だちが集まってくれて、淋しくて離れたくなくてなかなかバスに乗り込めませんでした。

アーニャとローサは泣いていて、私も泣きそうだったけれど泣きませんでした。最後にみんなと抱き合っ、お別れしました。絶対に泣かないと決めていたけれど、バスの中で、ローサの頑張って日本語で書いてある手紙を見た瞬間泣きました。

フィンランドに行くまでの間にお世話になった役場の人たち。最初から最後までお世話になった小澤課長。帰りの飛行機で、私のヘッドホンをして流れた爆音で課長がびっくりして2人で大笑いしたことも、良い思い出です。そして、準備にたくさんのお金をかけてくれた親。私に良くしてくれたアーニャの家族。仲良くしてくれた学校のみんな。そして、こんなチャンスを与えてくれた奈井江町。本当に感謝しています。

フィンランドはとても素晴らしいところでした。本当にありがとうございました。

ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江中学校 2年生 北 耕一

(ホストファミリー：ピリッタ・マッティラ、ローサ・コイヴネン)

【1日目】

いよいよ今日から全てが始まるんだろうな、と朝からワクワクしていた。意外と不安と心配はなかった。親元を9日間離れるのも全然気にしてなかった。久しぶりの飛行機は想像以上に耳が痛かった。名古屋についたときは、とても綺麗な夕日と海が目映っていた。ホテルに行き、部屋についたときはなんかほっとした。部屋は誰もいないし、静かで違和感があったが、よく考えてみたら自分の部屋も静かだし、変わらないなと思った。

夕食を食べに行ったが、中部国際空港はでかく、見ていて面白かった。外に行き飛行場も見たが、とても綺麗だった。夕食も最高だった。そのおかげか、夜の寝つきはすごいよかった。

【2日目】

ホテルから見える朝日と海は綺麗だった。朝ごはんもおいしかった。空港に向かい、いろいろパスポートチェックや検査などがあつた。飛行機はフィンランド航空の機体で CA さんもフィンランドの人が多かつた。日本とは違い男の CA さんもいた。その人は見た目が機長さんに見えるくらい大男でびっくりした。

飛行機は10時間のフライトで、寝ようとしても全然寝れなかつた。機内食は正直そこまでおいしくなかつた。でも、フランス人とおしゃべりしたり、映画がいろいろ豊富だつたりでなんとかなつた。着陸のときは興奮が止まらなかつた。

着陸して入国審査へ向かつた。途中迷つたが、なんとかそこに行けた。入国審査では、CM や映画でもあるようにいろいろなことを英語で聞かれた。最初は少し戸惑つたが、なんとか答えられ、うまく通れた。その先にハウスヤルビ町

のトルティーラ教育長、ヒエタミニ総務課長、通訳のヴァルカメさんが出迎えてくれた。通訳さんの日本語力は予想をはるかに超える力で驚いたし、すごく助かった。あたり一面、日本と別世界で眠気も吹っ飛んだ。

ヘルシンキからバスで1時間弱で目的地のホテルに着いた。みんな今晚ホテルに泊まる予定であったが、通訳さんから、「君だけ今晚からホームステイです」と言われ驚いた。その後、制服に着替えて歓迎パーティーに出席した。パーティーはいろいろな料理があり、どれもおいしかったが、特にトナカイの肉を使った料理がとてもおいしかった。ホームステイ先の家族とも会ったが、みんな身長が180 cmくらいあり、すごく驚いた。ホームステイ先の子は女の子で身長178 cm、髪の一部をピンクに染めてインパクトがあり、ローサという子だった。パーティーでは小澤さんのスピーチのほか記念品を頂いた。後半から眠気がすごいことになってきた。

パーティーが終わり、ホームステイ先の家族と一緒に家に向かった。家につくと、すぐに寝かせてくれた。こうして一番長い日が終わった。

【3日目】

朝、現地時間7時に起きたが、まだ暗かった。朝ごはんはパンだった。日本からの手土産を渡した。おかきとカレンダー、折り紙を渡した。すごい喜んでくれてよかった。

午前中は教会にローサと一緒にいった。そこにはローサの友だちがいた。みんな挨拶してくれた。教会ではよくわからないことをやった。数グループに分かれ教会のなかで自分たちで物語みたいなのをつくり、翻訳アプリで翻訳したのを日本語で書いた。

午後からは違う所に行き、そこでパーティーの準備をしていた。実はその日はお母さんの誕生日だった。準備の間、私とローサは、「となりのトトロ」を見た。ローサはとても日本のアニメが好きだった。

そのあとパーティーに30~40人が来て驚いた。これだけのフィンランドの人に囲まれるのは、緊張したが、皆さんとても親切で、いろいろな話ができる。日本犬という犬を飼っている人がいた。すごい毛がふわふわしている犬だった。また自分が農家の家だと言うと、農家の人とすごい話があった。向こうの農家

は麦を作っていた。とても楽しいパーティーだった。

【4日目】

この日は湖にある別荘に行った。「フィンランドの人々は湖に別荘を持ち、休日にはそこで過ごす」と聞いた。途中、スーパーマーケットに行った。フィンランドのスーパーマーケットは日本と変わっていて入口にゲートがあり、万引きを防いでいた。また農業学校にある200年前の風車を見に行った。風車はとても大きかった。別荘はとてもよかった。湖はとても綺麗だった。

別荘にはサウナがついていて、ホームステイ先の家族と入った。本場のサウナは日本とは全然違った。薪を燃やし熱くなった鉄に水をかけ、その水蒸気であったかくしていました。天気がいい日は、湖に飛び込んだりするのだが、天気が雨でできなかった。だけど、外に出てジュース飲んだり、話したりした。サウナに入ったのでとても寝つきがよく、ぐっすり寝れた。

【5日目】

この日は初めて学校に行った。学校は中高一貫の学校だった。生徒はみんな私服でスマホを持っていて驚いた。中には化粧やピアス、髪染などやっている生徒もいた。1時間目は家庭科でヨーグルトを作った。そして校長先生と平田さんたちが来た。久しぶりに日本人に会えてなんかほっとした。それから校長先生と通訳のラマさんと平田さん平田さんたちと学校をまわった。

学校の内装はとても綺麗だった。日本とは違い教科ごとに教室を移動していた。「だからクラスがない」と校長先生が言っていた。



校長室で校長先生がいろいろなことを教えてくれた。進路のことだ。「フィンランドでは、45%の生徒が高校へ、残りの生徒は専門学校に行く。そして、大学までお金はかからない」と言っていた。これにはすごい驚いた。

給食はみんな食堂で、好きな人と食べていた。食堂はバイキングみたいに複数の料理を好きなだけ取っていく感じだった。みんなの皿を見ると好き嫌いがはっきりしていて面白かった。この日食べたのはトナカイの肉とサラダとじゃがいもだった。すごいおいしかった。

午後は、フィンランドの有名人によるいじめに関する講演だった。とても考えさせられるような講演だった。そのあと記念撮影してくれた。地元の新聞記者からもいろいろ取材を受け、翌日の新聞に載った。

学校帰ってからは、隣の親戚の家に行き、ケーキを食べたり、お話しをしたりした。また親戚は農家で、農場を見学させてもらえた。麦を作っている農家だった。そのあとトラクターを運転させてもらえた。すごい楽しかった。夜には、家にあるバギーで裏の森の中を駆け巡った。すごい爽快で楽しかった。

【6日目】

この日も学校に行った。1時間目は数学だった。2時間目は地理でプロジェクターなどを使って授業をしていた。3時間目も地理だった。4時間目は死刑に関する授業をやった。日本でいう道徳だ。この日の給食は小麦のお粥だった。正直おいしくなかった。5時間目は美術で枝を描いた。

学校から帰ったら、ローサとローサの友だちと出かけた。すごい大きなデパートだった。そこでプールに入った。すごい大きなプールでウォータースライダーもある大きなプールだった。すごい楽しかった。そのあとは、みんなで買い物をした。私はお土産などを買った。そしてファーストフード店でハンバーガーを食べ、帰った。

【7日目】

この日は最後の学校。数学をした後、体育でバトミントンをした。すごい楽しかった。給食は魚の煮物みたいだったが、意外とおいしかった。家に帰ると、

前とは違う湖に行った。そこでバーベキューをやった。天気がよく湖が綺麗だった。時間が経つと、色が変わっていき、面白かった。夜は外にある風呂でいろいろ話したり、ジュース飲んだりして、夜空見て楽しんだ。うっすらオーロラがかかっている神秘的だった。

【8日目】

学校に行き、ホームステイ先の家族、友だちに別れをつげた。つらかった。友だちがプレゼントを渡してくれた。中には手紙とチョコが入っていた。そしてハグしてお別れした。

そのあとは奈井江町のみんなでヘルシンキ観光に行った。ヘルシンキはとても美しい街だった。教会に行ったが、とても綺麗だった。ヘルシンキ観光を楽しんで飛行機に乗った。

【9日目】

日本に着くとなんか安心した。乗り継ぎまで1時間しかなくドタバタした。やっと飛行機に乗り、千歳につくと、少し寒く、やっぱり北海道だなと思った。奈井江町に着くとすごい久しぶりの感じだった。自分の家につくと、やっぱり自分の家が一番だなと思った。

外国でのコミュニケーション、文化を学べてよかった。この経験を将来の夢や目標に繋げていきたい。



ハウスヤルビ町を訪問して

奈井江中学校 2年生 平田 涼夏

(ホストファミリー：

ヤリ・マキネン、ピルッコ・マキネン、ローサ・マキネン)

【1日目】

単な出発式を終えて新千歳空港に向かいました。そして、空港で親から ipad を受け取りました。やや、説明が不足していたため、待ち時間に wi-fi の接続に慌てました。初めて乗った飛行機は景色も見ずに寝ていました。すぐに中部国際空港に着きました。初めて北海道から出ましたが、飛行機で少し酔っていたので数時間は辛かったです。

小澤課長について行き、ホテルのチェックインを済ませて少しの時間、部屋で休むことができました。その後、空港内でご飯を食べました。その料理の味はあまり口に合わなかったです。食べ終わった後、飛行機の写真を撮り、ユーロに両替し、そこで一日は終了ということでそれぞれ部屋に戻りました。

【2日目】

朝、目覚まし時計を2個セットしましたが寝坊しました。朝ごはんを食べるので集合時間を昨日のうちに決めたのにかなり寝てしまっていて15分前くらいに起きました。準備を15分で終わらせて北くんの部屋に寝坊のことはなかったようにして行きました。そして、集合場所まで行きご飯を食べました。バイキングで美味しかったです。

中部国際空港を出て約十時間、飛行機



の中で暇でした。個別にあるTVは操作が反応しない、機内はwi-fiが繋がっていない、機内食は味が口に合わないでいろいろ大変でしたが、長々としたフライトも終わり、人生初のフィンランドに着きました。空港で偉い人だと思われる人たちと通訳さんが一人いました。軽く挨拶を交わし、バスでホテルに移動しました。

ホテルに着いたら、制服に着替えて歓迎会に参加しました。そこに居るのはフィンランド人ばかりで日本人は数人。さすがに緊張してきて心配でした。

そんな中、ホストファーザーだと思われる人に呼ばれて近づいて行きました。席につき、自己紹介をされました。外見は少し怖いけど、とても優しいヤリさん、話してみると意外と声の高いホストマザーのピルッコさん、全体がとても可愛いホストシスターのローサの3人家族でした。細かいことは分かりませんが、まずは優しい家族で良かったです。

メニューの説明をしてもらい、バイキング形式ということで取りに行きました。正直、お腹もいっぱいだったので少量を取ってきました。簡単な英語で会話をすると思っていたのですが3人でフィンランド語を話し始めたので焦りました。最後のほうでローサが翻訳アプリを使って質問をしてきました。内容は動



物系の話で動物は好きか、家でペットを飼っているかなど話しかけてもらって嬉しかったです。とりあえず、大きい犬が1匹と猫が2匹いることが分かりました。動物は嫌いというより怖いので、触れ合わなければいいかと思っていました。

歓迎会が終わりホストファミリーは帰っていきました。部屋に戻ってシャワーに入ろうとしたのですが使い方が分からず、瀧さんがフロントに電話をしました。言語の違いにより会話は成立せずに切ってしまいました。そこで、小澤課長に連絡をしてやっと使い方が分かりました。シャワーを浴びた後、水を買おうと思ってフロントの方に行きました。フロントには炭酸の入っているものばかりで、探すと水らしきものを見つけたのでフロントの人に聞いてみると、それは炭酸水でした。ということで、飲み物は買わずに9時30分くらいに寝ました。

疲れていたのですぐに眠れました。ですが、夜中の1時に腹痛で起きました。かなり辛かったので母親にメールで助けを求めました。何通かメールを送り合い、腹痛が治まったのは2時くらいでした。そして、初日から帰りたいたいと思いながら寝ました。

【3日目】

朝、昨日の腹痛はなかったように元気でした。朝ごはんもちゃんと食べることができました。今回もバイキング形式で、主食はパンでチーズやバターをつけて食べました。昨日のことも考えて少なめに食べました。それでもお腹がいっぱいになりました。

食べ終わったら集合時間までフロントの近くの椅子に座って、緊張してホストファミリーを待っていました。そして、最初に瀧さんのホストファミリーが迎えに来ました。そのとき、「ローサはもう少しで来る」と言っていました。少ししたら家族3人で来ました。自分でバッグは持つつもりでしたが、ヤリさんがすぐにキャリーバッグを持ってきて車に入れてくれました。優しいなと思いました。車に乗ってヤリさんが「スズカ、買い物に行くよ」と言ったので、何を買うのかなと思っていたら、かなり大きいスーパーマーケットに行きました。そこではローサと行動しました。そのときに「何肉が好き？」と聞かれて

とっさに思いついたのが鶏肉で、「鶏肉です」と答えました。そうしたらローサが、ピルッコさんの方に行って「スズカは、鶏肉が好き」と言ったらしくかなり多い量の鶏肉を買っていました。そして、ジュースとプリンとクッキーを選ばせてくれて、キャンディーの量り売りでは、ローサが選んだ後に私にも選ばせてくれました。カラフルであり欲しくはなかったのですが、何個か買ってもらいました。

その後、家に行きました。土地が広くて綺麗でした。家にはゴールデンレトリバーのナッケという犬がいて、私のことを怖がらず、すごくくっついて可愛かったです。それと、猫が2匹いましたが、猫は怖いので触れ合っていません。

そして、ローサの部屋を貸してくれるそうで、一人部屋でした。広くて綺麗でした。荷物を置いて家の中の紹介してもらいました。そして、また出かけました。次は湖に行きました。その場所の近くにある石造りの高い塔にヤリさんとローサと一緒に登りました。かなりの体力を消耗しましたが、塔の頂上からはフィンランドの象徴でもある森と湖が見えてとても綺麗でした。降りたら先ほど見た湖を見ました。そこには白鳥や鴨がいて、近くまで来てくれて可愛かったです。上と下では景色が全然違いましたが、個人的には下から見たほうが好きでした。

その後、「お腹が空いていますか？」と言われましたが、なぜか満腹でした。多分みんなは「イエス」と言うのを待っているだろうと思い、言ってしまいました、「イエス」と。時間も1時なのでそんなに食べないだろうと思っていたのですが、サブウェイで大きなハンバーガーを食べました。食べるのが辛かったです。食べ終わったら家に帰りました。

そしてまた、出かけました。次はフィンランドの博物館に行きました。説明が全てフィンランド語で書いてあるので理解不能でしたが、ヤリさんが翻訳アプリを使ってたくさん説明してくれました。たまに翻訳した日本語を喋るときがあって発音が違い面白かったです。そこでローサが、遠くの誰かに手を振っていたので、その先を見ると瀧さんと瀧さんのホストファミリーのアーニヤがいました。日本人が同じ場所に居るだけで安心しました。途中で小澤さんにも会えました。

帰った後、今度は手袋を渡されて出かけました。やけに「フォレスト」「ウォー

ク」と言っていたので多分、家の近くの森を歩くのだらうと思いました。予想の中で犬のナツケの後ろをついていくように森を歩きました。道になっていない道を歩いたので、転びそうになったことが何回もありました。たくさん歩くと大きな湖があり、それを数分眺めていました。そして、森を抜けると普通の道に出ました。そこで木にかかっているナツケのおもちゃをヤリさんが木を揺すって取っていました。そのあと家に帰りました。

家でヤリさんがストリートビューで奈井江を開き、奈井江中学校と私の家を探しました。そのときヤリさんは昨年、中学校に来たと言っていました。多分、会っていたと思いました。

そして、「暇だね。何する？」と言われて困っていたら、ヤリさんが日本にもあるボードゲームをたくさん持ってきてくれて、それをやりました。勝ったり負けたりで楽しかったです。それでも「まだ暇だね」という話になり、次はwiiをやりました。マリオをやりましたが、日本のものとまったく変わらなくて楽しかったです。

そして、かなりやったあと、ピルッコさんが、「シャワー&サウナ」と言いローサと一緒にサウナに入り、シャワーを浴びて着替えを取りに行きました。そのときにお土産を持ってきて渡しました。たくさん渡しましたが、特に日本語の書いた靴下とヘアピンをかなり気に入ってくれたようでした。嬉しかったです。

その後、ヤリさんが作ってくれたご飯をローサと2人で食べて、またwiiをしました。やっている途中にヤリさんがプリンと飴を持ってきてくれて、プリンを食べた後、不味いと噂のサルミアッキを食べました。口に入れた瞬間アンモニアを思い出しました。それはトイレに流しました。ホームステイ初日、すごく笑われました。そして、寝ました。

【4日目】

朝5時くらいから起きていて、みんなは寝ていたのでipadをいじっていました。10時くらいにローサが起きて朝ごはんを食べました。朝はパンで簡単に済ませました。食べているときにピルッコさんが、「今日はヘルシンキに行って買い物をする」と言っていました。その後、ヤリさんがパソコンで水族館とムーミンショップのホームページを見せてくれました。準備をしてヘルシンキに向

かいました。車のスピードが速かったのでずっと高速に乗っているのだと思っていましたが、実際はずっと普通の道路でした。

最初は水族館に行き、いろんな魚を見ました。大きな魚より小さな魚がたくさんいました。ショップでヤリさんが翻訳を間違えて、「あなたが欲しい」になっていてびっくりしました。「違うよ」と教えるとすごく笑って恥ずかしがっていました。本当は「何か欲しいものはありますか？」と言いたかったらしいです。特に欲しい物もなかったので、「いいえ」と答えました。そうしたら、ピルッコさんが、ペンとストラップとメモをプレゼントしてくれました。とても嬉しかったです。

その後、ヘルシンキの大きなデパートに向かい、ムーミンショップに行きました。そこでヤリさんが、ムーミンの T シャツを買ってくれました。デザインも可愛くてかなり気に入りました。

そして、ご飯を食べにお店に入りました。そこは基本お肉しか置いてないらしく、よく分からないのでローサと同じものを頼みました。出てきたのはチキンでした。量が多かったので食べるのが大変でしたが美味しかったです。

次は、瀧さんとアーニヤと買い物をするらしくヤリさんとピルッコさんは帰っていきました。最初、アーニヤに連絡もつかないので、ローサが困っていましたが、すぐに来ました。合流した後、アイスを食べました。お昼ごはんの後でお腹はいっぱいだったのでさっぱりしたものを食べようと思い、オレンジ味を選んだつもりがマンゴー & メロン味で味が最悪でした。食べた後、たくさん服を見に行きました。その後、またムーミンショップに行きました。次はローサが鉛筆をプレゼントしてくれました。

そのあと、近くの駅に行ってフィンランド初の電車に乗りました。切符の買い方など日本とあまり変わらなかったです。電車の中で写真を撮ったりしてみんなと仲良くなれました。ハウスヤルビの近くの駅で降りて、そこにヤリさんが迎えに来てくれたので、瀧さんとアーニヤとはお別れとなりました。すぐに家について、ご飯を食べました。晩ご飯でもパンが出てきて驚きました。少ししたらシャワーを浴びて wii をしました。何回もゲームオーバーになって全然進まなかったけど楽しかったです。寝る前にローサが、「明日は学校だから 6 時 40 分くらいには起きて」と言いました。起きることができると心配でした。

【5日目】

昨日、ローサに言われていましたが4時30分には起きていて、ipadをいじっていました。6時40分になってもローサは起きてこないで、7時になってやっとローサが起きてきました。すぐにご飯を食べて準備を始めました。

準備が終わったら学校に向かい、途中で瀧さんとアーニヤと合流し学校に行きました。みんな同じ教室で勉強すると思ったら、それぞれが違う教室に入っていました。教室に入ったら6~7人しかいなくて、みんなスマホをいじっていて日本とは違いました。

1時間目はフィンランド語でよく分からないので聞き流しました。授業は45分間、それから休み時間は15分間で、授業が終わったら外に出て友だちと話しました。寒いのに外で話す理由が知りたかったです。

休み時間の終わりを告げる音楽が流れ、またフィンランド語の授業をしました。そして教室にとても若い校長先生と初めて見る女の人が1人来て、私を廊下に連れて行きました。自己紹介を英語ですると女の人が日本語で、「私はヴォッコ・ラマです」と自己紹介をして、初めて通訳さんだと分かりました。ラマさんは日本に住んでいたこともあるし、奈井江にも来たことがあると言っていました。これから何をするのかとと思っていると学校の説明をしてくれるらしく、音楽室で瀧さんと合流しました。その後、家庭科室で北くんにも会い、学校の



説明をしてもらいました。日本とは違って大きい校舎にたくさんの教室をつくり、設備がしっかりとしていました。またクラスというものがないため学級の教室がないので、その分、たくさんの教科の教室を作ることが可能ということらしいです。学校には学校祭や委員会がないのですが、体育祭のような運動をする行事はあるそうです。そして、生徒の大半は高校受験より専門学校に入学するために努力をしているそうです。

説明が終わったら食堂で昼食をとりました。給食ではなく、バイキング形式でサラダとジャガイモの上にお肉がのったもので美味しかったです。食べ終わった後は「デュードソズ」と言うフィンランドでは有名な人たちの話を聞きました。少し変態気味なところもあったけど言っていることは正しかったです。「いじめは良くない」「夢を持とう」と言っていました。話が終わった後、デュードソズと写真を撮らせてくれました。

その後、フィンランドの記者が取材をしに来ました。明日の朝刊に写真を載せると言っていました。学校はそれで終わり、帰りの会というものがなく、玄関でラマさんや瀧さん、学校の友だちと話しました。ラマさんが友だちの言っていることを通訳してくれて、会話ができて楽しかったです。明日はラマさんが居ないことが分かり、不安と焦りばかりでした。話が終わったら帰ることにしました。

途中でスーパーマーケットに寄り、アーニヤからお菓子をもらいました。食べたら苦くて不味かったです。サルミアッキだと知らされゴミ箱に捨てました。涙目になるほど不味かったです。スーパーマーケットでアーニヤたちと別れ、家に帰りました。おやつの間暇らしく、パンとプリンとスープを出されてお腹がいっぱいになりました。

食べ終わったらアーニヤの家に向かいました。ローサの自転車を貸してもらいましたがブレーキがなく、サドルの位置が高くて結構怖かったです。アーニヤの家は近く、すぐに着きました。アーニヤの家でたくさん写真と動画を撮って、踊って歌って話してすごく楽しかったです。その後、家に帰ってご飯を食べました。食べ終わったらヤリさんが月を見に行くと言って外で月を見ました。かなり綺麗でした。そのあと寝る準備をして寝ました。

【6日目】

6時30分くらいに起きましたがすることがないので、ipadをいじっていました。7時くらいにローサが起きてご飯を食べました。食べ終わったらヤリさんが昨日の新聞記事を見せてくれました。写真を撮ってメモに名前も記入したはずなのに何も載っていませんでした。

ヤリさんが学校まで送ってくれて学校に着いたら、玄関の近くで学校の友だ

ちと話しました。と、いうより話を聞き流していました。授業の時間になり教室に移動しました。1時間目は理科の授業を受けました。実験を2回やりました。1回目は電流の流れについての実験でした。日本でも同じようなことをした覚えがありました。2回目は白い粉末を試験管に入れて火で炙り、黄色と赤の石のようなものを入れて炎が燃え上がるという実験でした。燃えたまま授業は終了でした。次の教室に向かいました。その授業内容が理解できなかったのですが、刑務所の人動画を見ていました。そのあと、数学の授業を受けました。中学3年生の学習範囲が1次関数の基本で驚きました。

授業が終わったあとは昼食を食べに食堂に行きました。そこではシナモンの匂いが漂ってきて、食べることができるか心配でした。ローサに「これは何ですか？」と聞くと「小麦のおかゆです」と言われ、お粥もシナモンも嫌いなので食べることができないと思いました。とりあえずみんなと同じように盛りました。小麦のお粥の上にシナモンとイチゴジャムをかけていたので同じようにしました。最初は意外と食べられると思いましたが2口、3口でもう無理でした。

その後、体育の授業で準備運動もなく、ドッチボールをしました。日本よりボールが小さく硬かったので当たるとかなり痛かったです。そのあとは卓球とバトミントンをやりました。ペアが決まっていなかったなので、たくさんの人と仲良くなれました。そして、名前が分からないゲームをしました。ボウリングのピンのようなものをボールから体1つで守るゲームでした。結構楽しかったです。

学校が終わって玄関の近くで少し友だちと話してアーニャと瀧さんとローサと一緒にスーパーマーケットに寄りました。お土産をかうつもりでしたが、明日、さよならパーティがあるないで話し合いになり、ラマさんに連絡を取りましたが結局、分からないと言われてしまい大変でした。結果、明日買いに行くことになりました。

家に帰っておやつ…、というよりご飯でした。サラダとパンとプリンを食べました。少しwiiをして、ローサのピアノのレッスンを見ました。その後、バレーボールの練習に付き合わされました。靴を持って来ていなかったため靴下でパスやスパイクの練習をしました。足裏がかなり痛かったです。その後、ゲームに参加してもっと足裏が痛かったです。終わったらヤリさんが迎えに来てくれ

て家に帰りました。そしてご飯を食べました。ヤリさんが気を使ってパラパラの白米に醤油、わさびをつけたものとサラダを作ってくれて、箸も出してくれて食べました。正直、日本の方が美味しいなと思いました。そして、サウナに入ってシャワーを浴び、wiiをしました。その後、寝ました。

【7日目】

今日は、ローサに起こしてもらいました。ご飯を食べて準備をして、学校にはピルッコさんが送ってくれました。階段で友だちと話しました。今日はローサと行動をせず、ある男の子と行動することを昨日聞いていたので、一緒に数学の授業を受けました。昨日と同じで1次関数の基本をやっていました。次はたぶん、地理だと思う授業を受けました。その次は英語の授業でした。日本では中学1年生の範囲で簡単そうでした。そこで、ほかの国からの留学生に会い、話を少ししました。授業が終わったら外に出て話しました。結構寒くて、中で話したかったです。

昼食を食べに食堂に行きました。今日はジャガイモに魚のソースをかけたもので、昨日よりは美味しかったです。そして、校長先生のところに連れて行かれて、ムーミンのお皿とマグカップをもらいました。そのあとの授業はまた地理で、先生がフィンランドのパズルを持ってきてくれて、それを永遠にやり続けました。授業が終わったら美術室で英語の授業を受けました。その授業だけはみんなちゃんと受けていて驚きました。

学校が終わって真っ直ぐ、アーニヤと瀧さんもローサの家に来てプリンとグミを食べました。その後、お土産を買いに電車でショッピングモールに行きました。最初にご飯を食べにハンバーガー屋さんに行きました。食べ終わったら買い物をしました。そのあとスーパーマーケットでお土産を買って帰りました。帰りはアーニヤのお母さんが家まで送ってくれました。

帰ったらヤリさんが小澤さんとの写真を見せてくれました。そして、シャワーを浴びて出てきたら、ホストファミリーの様子が何か変でした。と、思ったらリビングに連れて行かれ、手紙やプレゼントをたくさんもらいました。明日帰ると思うと寂しかったです。そしてwiiをたくさんして寝ました。

【8日目】

今日もまた、ローサに起こされました。ご飯を食べて準備をしてピルッコさんに別れの挨拶とハグをしました。ピルッコさんは涙目で、寂しかったです。今日はヤリさんが学校に送ってくれました。ヤリさんにも別れの挨拶とハグをしました。

そして、体育の授業を受けました。今日はバドミントンをして結構楽しかったです。終わったらローサから手紙をもらいました。それで今日の学校は終了で、送迎のバスが待っていました。ローサやアーニヤ、学校の友だちに別れの挨拶とハグをしました。そこで初めてフィンランドで涙を流しました。周りの人も泣いていて帰りたくなかったです。

バスに乗ってヘルシンキに向かいました。途中から小澤さんや通訳のヴァルカメさんにも久しぶりに会えました。そして、ヘルシンキのムーミンショップに行きお土産を買いました。そこで偶然、日本のテレビ番組の収録をしていて、ほかの日本人とも少し話すことができました。昼食は、フィンランドなのにカレーを食べに行きました。お米があったのですがパラパラで、一昨日食べたものに似ていました。

ヘルシンキの観光を終え、空港で通訳さんたちと別れ、時間まで待ちました。そこでローサが、来年日本に来ることが分かってとても嬉しかったです。そして時間になり日本に帰りました。

今回、視察団という形でフィンランドに行けて良かったです。心に残るものになって勉強にもなりました。ありがとうございました！

